

# 株式会社山岸金属

建築金物加工形成のパイオニアを自負する、札幌市西区の株式会社山岸金属。同社では、農業用調整池フェンスや河川の取水口スクリーン、ビルの外装パネルや大規模施設などに設置するレール不要の門扉などを製造。溶接・組み立てを中心に、10年20年先を見据えた若手社員の育成に積極的に取り組んでいる。

## 溶接技術と理論を学ぶため 道職業能力開発大学校に 若手社員12名を派遣

### 社内での技術の継承にも変化

同社では本社工場で機械による金属板のレーザー加工・プレス加工を行い、第3工場では溶接・組み立てを行っている。人材育成についてはかねてから重視してきたが、昔のいわゆる「先輩の背中を見て覚える」やり方では時代に合わないことも熟知。20代～30代前半の若手社員が多い中、先輩社員となる熟練工には技術者であると共に、指導者としてより意識を高めてもらうことを求め、カリキュラムを組んだ指導を行っている。

若手の作業をじっと見守る熟練工。決して手は出さず、技術を自らの経験で習得していってもらうことに心を砕いてきた。その教えは非常に貴重なものだが、一方で別の視点に立って正しい溶接技術を客観的に学ぶことも必要であるとの考えから、北海道職業能力開発大学校の研修に若手社員を派遣することを検討。溶接・組み立てを担う4名に加え、本社工場からの志願者を募ったところ、若手技術者から積極的に受講の意志が示され、計12名が同大学校の技術訓練を受講することとなった。

### より良いものづくりへの相乗効果

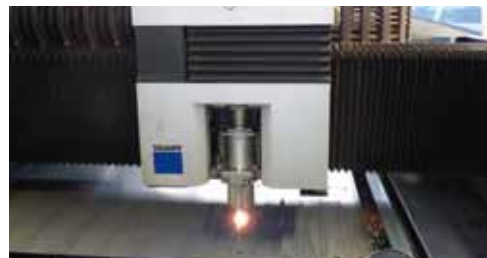
受講は平成27年5月23日～9月12日にわたる期間中の延べ11日間。受講内容は被覆アーク溶接実践技術（各種姿勢溶接）、炭酸ガス半自動アーク溶接技能クリニック、TIG溶接実践技術（ステンレス鋼板材編）、Webを活用した生産システム構築技術の4つで、1人が複数のカリキュラムを受講。溶接・組み立ての技術者は、資格の取得も視野に入れて取り組んだ。

研修の成果について山岸聡代表取締役は「今まで取り組んできた技術の裏づけが論理性をもって見え、若手社員一人ひとりの自信につながった」ととらえている。また、本来は溶接作業を行わない本社工場の社員たちも、今回の受講により「金属板をどう切り、どう曲げれば、その後の溶接・組み立て作業がしやすくなり、良い仕上がりの製品になるかを学び、従来以上に意識するようになった」と話す。さらに、効果は社内では指導にあたる先輩社員たちにも現れた。「後輩たちが学校で学んだことを活かせるように、きちんと教えなければ」と自らを律する姿勢が見えるという。

人材が育ち、技術が継承されなければ会社は成り立たない。補助金の活用はその意味でも有用であり、今後も積極果敢に人材育成に取り組んでいきたいと山岸代表取締役は話す。



金属板を折り曲げるプレス加工



レーザーにより金属板を切断



溶接技術者は資格取得も目指して



溶接・組み立てを行う第3工場

### 20年先も 強い体力を持った 会社であるために

代表取締役 山岸 聡



大学校での研修を社員に呼びかけた際、予想以上に「学びたい」という声が上がリ、多くの社員が参加できたことは非常にうれしいことでした。人材への投資は5年10年のスパンで見ることがあり、20年先も会社が強い体力を持って生き残っていくためには不可欠です。今回、補助金の後押しも受け、社内教育とは異なる視点で学びの場を得られたことはとても有効だったと思います。

### 〈会社情報〉

株式会社山岸金属

- 所在地／札幌市西区発寒16条13丁目6-15
- TEL／011-664-3651
- FAX／011-664-5523
- 代表者／代表取締役 山岸 聡
- 設立／昭和51年12月(昭和35年8月創業)
- 従業員・職員／38名
- URL／<http://www.yamagishikinazoku.com/>